

第7期鹿追町総合計画策定会議専門部会議事録

専門部会名	教育専門部会（第2回）	議事録作成者	企画課企画係 係長 迫田 明巳	
開催日時	令和5年9月7日 19:00 ~ 20:30			
開催場所	町民ホール2階セミナーA			
委員 事務局等 出欠	出	部会長 神谷 秀俊	出	学校教育課長 宇井 直樹
	出	副部会長 俵谷 俊彦	出	社会教育課長 平山 宏照
	出	委員 上野 精嗣	出	学校教育課主幹 天野 健治
	出	〃 上嶋 浩二	出	企画課 迫田 明巳
	出	〃 大下 洋美		
	出	〃 中谷 桃恵		
	出	〃 足利 正治		
	出	〃 佐々木睦美		
その他出席者	なし			
1. 説明	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 平山課長から「第5次生涯学習中期計画策定に係る住民意向調査結果」に沿って説明</li> <li>● 天野主幹から社会教育の現状等について説明</li> </ul>			
2. 討議	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 以下の「主な発言内容」参照</li> </ul>			
3. まとめ	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 宇井課長から、教育大綱の内容と皆さんの意見を踏まえて役場側で見直し案を策定し、専門部会に諮ることを説明</li> </ul>			
4. 次回日程	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 会場では日程の調整つかず、追って日程調整の連絡</li> </ul>			
5. 部会長挨拶	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 神谷部会長</li> </ul>			
発言者	主な発言内容			
平山課長	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 社会教育の現状が見て取れるのでアンケートを紹介したい。昨年度に第5次の生涯学習中期計画を策定するためにアンケートを実施したもの。生涯学習中期計画は教育大綱も参考にしつつ修正した部分もある。今回の部会で皆さんにいただいた意見は、総合計画に反映するものもあれば、すぐに対応できるようなものは各担当に伝え対応を検討していきたい。</li> </ul> <p>（資料「第5次生涯学習中期計画策定に係る住民意向調査結果」に沿って説明）【別添参照】</p>			
天野主幹	<p>（パワーポイント資料に沿って以下の内容について説明）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 1人あたりのGDPと生活満足度の推移について（イースタリンの逆説）</li> <li>● 主観的幸福度を決定する要因の重要度としては、学歴&lt;世帯年収&lt;自己決定指標という結果がある。</li> <li>● 少子高齢化の現状について</li> <li>● リカレント教育の重要性について</li> <li>● 2006年教育基本法改正で「生涯学習」の理念が規定される。「学校教育」の定義は明確であるが、「社会教育」は学校教育以外の教育</li> </ul>			

	<p>活動とされている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 社会教育の重要性が今叫ばれている。その中でも「かかわり」の重要性が叫ばれている。同年代以外との「かかわり」が大切と言われている。</li> <li>● 静岡県で実施された調査によれば、社会とのかかわりがあり、社会参加をしていると死亡率が低下するとの結果も出ている。</li> <li>● 子ども時代の体験が大きな影響を与えとも言われている。</li> <li>● 以下のようなテーマでグループワークを進めていただきたい。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・所有欲求より存在欲求が実現される社会とは？</li> <li>・「かかわり」が大切にされる社会とは？</li> </ul> </li> </ul>
<p>足利委員</p> <p>中谷委員 俵谷副部長</p> <p>佐々木委員</p> <p>俵谷副部長</p> <p>宇井課長 迫田係長</p> <p>足利委員</p> <p>俵谷委員</p>	<p><b>グループA</b> (俵谷副部長、中谷委員、足利委員、佐々木委員、宇井課長、迫田係長)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● リーマンショック後にこの議論がサラリーマンで大きなテーマとなった。しかし、その後に貧富の差が拡大し、その様子を見てきた私としては、この議論は絵に描いた餅のようなものでもある。存在欲求というのは、もはや消えてるのではないかと思う。そうではなくて well-being と思う。だからこそ、well-being を追求した方がいいと思う。</li> <li>● なかなか聞きなれない言葉なので難しい。</li> <li>● 借金もある中で、収入も必要な中、やはり所有欲求を捨てきれないのではないか。英語で言うと「to have」か「to be」かという議論だと思う。</li> <li>● 認められ方もあるのではないかと思う。昔はお金を貰うことが一番であったが、今はお金よりも休みとか価値観が変わってきた。自分が小さな頃はそんなに褒められたということがないが、今の子は褒めて欲しいというのをヒシヒシと感じる。喜びを感じたいのだと思う。</li> <li>● 普段からスポーツで子どもの指導に当たっている宇井さんや迫田さんはそこらへんどう感じるか。</li> <li>● 実際のところ、そういったことはあまり感じない。</li> <li>● 褒めて欲しいという感じはないが、昔と比べると、子どもたちから自主的に湧き上がるモチベーションのようなものを感じない。やる気にさせるまでが大変に感じることが多い。</li> <li>● 「かかわり」が少なくなっている。単純なことを褒めてくれることがない。昔は繋がる仕組みが強引にでもあった。今も繋がりたいという気持ちがあると思うのだが。昔は今で言う「メンター」のような人と簡単に繋がっていた。仕事もそうだと思う。部下も上司もかかわりがない。それで若い人は仕事を変えていく。そういった人は転職を重ねて「キーパーソン」というか「メンター」のような人に出会った職場で落ち着くようだ。</li> <li>● 先ほどのアンケートの中に「良い本がないから図書館に行かない」という回答が相当数あったが、鹿追町の図書館は本当に良い本がたくさんある。学校の中で読書の価値を作れなかった反省がある。い</li> </ul>

足利委員	<p>ま、高校で読書をやっている。少しずつ読書の価値を作っていかなければならない。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 所有欲求は無くならない。簡単にそれが存在欲求にはとって変わらない。</li> <li>● 先ほど所得と生活満足度の話もあったが、それと繋がっているのではないか。上を見てもキリがない。何に感謝できるかというのが大切だと思う。</li> </ul>
中谷委員	
天野主幹	<p><b>グループB</b> (神谷部会長、上野委員、上嶋委員、大下委員、平山課長、天野主幹)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 特に今の若い年代の欲求は、所有欲求から存在欲求に移ってきている。不登校も学校内での先生や友人の中での自分の存在認識が関係しているのではないか。</li> <li>● 昔は、働いて高い時計や車を買うことなどを目的とする人が多かったが、今はあまり見かけない。収入の多さを求めるのではなく、生活できるだけの収入があれば、やりがいのある仕事を続けたいと思う人が増えている。</li> <li>● たしかに、私の周りにも、昔ほど高い車などを買うことで欲求を満たす人が少なくなったように感じる。</li> <li>● 以前から言われているが、人々の欲求がマズローの段階的欲求の上位段階に移ってきているかもしれない。</li> <li>● 町内会活動の重要性を認識している。一方、子育てで忙しい、子どもも少年団、部活動などで忙しい。活動を進めるにあたって苦慮している。</li> <li>● 防災や福祉など国の施策に人のつながりが不可欠であり、社会教育との連携が注目されている。</li> <li>● コロナ禍を経て、高齢化もあり町内会活動が回覧板を回すだけのよう縮小している。</li> <li>● 大切なのは、地域のことを好きに思うこと。好きになるには地域を知ること。</li> <li>● 今の時代、おしつけは嫌がられる。メンターやコーディネーターがグループ作りを支援していくことが必要。</li> <li>● そのためには人材の育成が大切。</li> </ul> <p><b>(焦点化される地域コミュニティと教育改革について)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 国の各施策は社会教育と繋がりたいと思っている。今、社会教育がアツいと言える。偉そうなことを言うつもりではないが、国も「つながり」の大切さに気づき始めた結果でもある。</li> <li>● 公民館の歴史について説明</li> <li>● 社会教育に目的はないが、社会教育がしっかりとすると目的が生まれると言える。</li> <li>● 全国の社会教育の事例について説明</li> <li>● 鹿追町の社会教育がどのようなのであればいいかについてグループワークしていただきたい。</li> </ul>
上野委員	
上嶋委員	
平山課長	
神谷部会長	
天野主幹	
平山課長	
大下委員	
天野主幹	
上野委員	
天野主幹	<p><b>グループA</b> (俵谷副部会長、中谷委員、足利委員、佐々木委員、宇井課長、迫田係)</p>

<p>佐々木委員 中谷委員 足利委員</p> <p>中谷委員 足利委員</p> <p>中谷委員</p> <p>俵谷副部長 足利委員</p> <p>俵谷副部長</p> <p>足利委員</p> <p>俵谷副部長</p> <p>足利委員 俵谷副部長 宇井課長</p>	<p>長)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 少年団活動はいい活動だと思う。</li> <li>● すくすく運動なども良い活動だったと思う。</li> <li>● 瓜幕地域では親と子どもが一緒になって色々なことをやっていると感じる。高齢者も準備がされていないことを誰かが手を挙げてやっている。それを仕掛けること、集まるのが社会活動だと思う。</li> <li>● 瓜幕は今でも地域でラジオ体操やっている？</li> <li>● 今年は少し期間が短くなったようだが、ずっとやっている。留学センターにあわせてみんなできているという事情もあるようだが</li> <li>● 誰かが一歩を踏み出す。スイッチを押して進む。それで well-being を高めるといこと。</li> <li>● あいさつ運動などは学校だけではなく、地域の人にも広げていくことが大切と思う。その時間に表に出て、散歩をすとか、ゴミ拾いをすとか。学校発信で地域に求めていく。win-win の関係になるように。学校が何を求めているかを伝えられればと思う。そのコーディネートが大切。</li> <li>● それ以外の大人はどう満足度を高めていくか。</li> <li>● 1年住んでいてショッキングなのは、子どもの名前が私はわからないけど、瓜幕地域の人みんなわかるということ。</li> <li>● 子ども中心の話になっているが、そうではなくて大人中心ということも考えてもよいのでは。単純に飲み会になってしまうのだろうか。</li> <li>● アルコールということではなく、いわゆる「飲みニケーション」というのも大切だと思う。</li> <li>● メンター・コーディネーターが大切ということだが、町でリストアップして、募集して、その人発信のものがあればと思う。</li> <li>● 図書館などでも良い事業をやっているが知らない人が多い。</li> <li>● 心配するのは退職後の男性のこと。</li> <li>● 健康寿命のことでいえば我々の年代は筋力が無くて80代では立ってられないとも言われている。それだけ昔の人に比べて体を使っていない。</li> <li>● 自分が若い頃の話なのだが、総務省の若い職員が鹿追町に研修に来て、役場の先輩が大草原の小さな家の中野一成さんのところに総務省の職員を連れて行った時のこと。「自分づくりができていないやつに、まちづくりなんかできるわけがない」と言っていた。それ以降、「自分づくり」が自身の最大のテーマだった。また、中野さんからは「いつか役場職員も年収350万円しかもらえない時代が来る」とも言われてきた。それからは年収350万円でも楽しい生活を求めてきた。</li> </ul>
<p>平山課長</p> <p>天野主幹</p>	<p>グループB (神谷部長、上野委員、上嶋委員、大下委員、平山課長、天野主幹)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 昔は、正月といえばカルタ取り、餅つき、凧作りなどの行事があったが、今は生活様式の変化もあり、少なくなった。</li> <li>● 社会教育は強制ではなく、基本自主的な活動であることが重要。自</li> </ul>

<p>平山課長</p> <p>神谷部会長 天野主幹</p> <p>大下委員</p> <p>神谷部会長 大下委員</p> <p>上野委員 神谷部会長</p>	<p>己実現や生活課題をいかに向上するか活動。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● スポーツセンターや美術館など、施設が整備され、スポーツや芸術文化など社会教育に触れられる場は多様になっている。</li> <li>● 今は選択肢がたくさんある。何をどう選ぶか。</li> <li>● 社会教育には明確な目的がない。多様なもの。しかし、人の生活には不可欠な重要なもの。</li> <li>● 高齢者でマージャンを楽しむ方が増えた。人が集い関わりあう場を求めていると感じる。</li> <li>● 人が人を呼ぶ。キーマン的な人材が必要。</li> <li>● 面白いからやる。これまでの当て職的な役員の決め方に限界が来ているのかも。</li> <li>● 部活動の地域移行が進められているが、受け皿が必要。</li> <li>● 20年間公民館活動に携わったが、コロナ禍を経たこともあり、特に最近、住民の積極性が失われている。活動を推進するにあたって賛同者が少なくなっている。</li> <li>● 何事も賛同者や推進役が必要。人材の育成が急務となっているのでは。</li> </ul>
<p>天野主幹 宇井課長</p> <p>天野主幹</p>	<p>(鹿追町教育大綱の基本的な 15 の政策の社会教育の分野を説明)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● この教育大綱の内容と皆さんの意見を聞きながら総合計画の見直し案を作っていきたい。</li> <li>● 鹿追町の教育で言うと「英語」「環境」の分野がすごくしっかりやっている。気づかないかもしれないが、ジオパークを活用した環境教育や、大人の英語教育など、他の自治体には見られない。それをどうやって鹿追町の社会教育として見せていくかということも大事と思う。</li> </ul>
<p>宇井課長</p> <p>俵谷副部会長</p> <p>天野主幹</p> <p>上野委員</p> <p>神谷部会長</p> <p>足利委員 佐々木委員 上嶋委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 今日の専門部会を終えるにあたり、皆さんから感じたことを一言ずつもらって終えたい。</li> <li>● 自主的に活動といっても難しい。メンターとかコーディネーターとかが大切。そういったことを役場で作っていく、リスト化していくことが必要。</li> <li>● コーディネートするのが社会教育、役場の仕事。でも、それが難しいのも実際。難しいのは分かっているが、それをやっていかなければならない。</li> <li>● 社会教育主事講習でよく聞くのが益田市のカタリ場のこと。つながりをどう作っていくのが大切。高校も中学校の方に来てくれる機会がある。どう関わりを作っていくか考えている。</li> <li>● 20年間公民館活動をしている。公民館運営委員会というのがあって地域の役職者 20 名程度が集まる。今年の花火と盆踊りの話をした時のこと、8割はどうでもいいという意見。「公民館長がやるといふなら」と賛同してくれる人はいなかった。先ほどのアンケートもそうだが「どちらでもいい」という考えの方が増えてきた。</li> <li>● つながり、人が人を呼ぶということ。キーマンという人がいて、それを中心に活動に依っていく。</li> <li>● 個人的には英語教育以外の他の言語の学習も面白いので取り入れ</li> </ul>

<p>大下委員</p> <p>俵谷副部長</p>	<p>てほしい。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 年配の人に聞くと「マージャンをしたい」という。少し外に出ていつも楽しめるような場所があると良い。昔、ライフアカデミーマイスターという制度があった。最近聞かなくなってしまった。また復活するといいと思う。</li> <li>● 子ども達を中心にとすることで話が進んでいるが、もうそこから離れて大人同士という風にといい思いもある。</li> </ul>
<p>宇井課長</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 皆さんの日程がうまく合わないようなので追って日程調整をしたい。次回は学校教育をテーマに進めていく。</li> </ul>
<p>神谷部長</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 大変範囲が広いテーマであったが、たくさんの意見が出たと思う。本日はお疲れ様でした。</li> </ul>